

いろいろな社会参加の形



川崎市内の介護サービス事業所様にお声掛けて、「こんなふうに参加されている」という事例を教えてくださいました。今回は、9件のケースをご紹介します。
 「もしかしら、あの方にもご提案できるかもしれない!」、「そういえば、以前は同じように通われているところがあったな」など、ヒントになるものがあればと思います。
 また、これからも「いろいろな社会参加の形」をお聞かせいただき、ご紹介できればと思っていますので、ご覧ください。

要介護度		年齢	性別	社会参加となった内容	きっかけと参加への道のり
改善前	改善後				
要介護3	要介護2	80	男	【公共交通機関を利用できるように】 徒歩を含め、タクシーと電車を乗り継いで、都内のかかりつけ歯科医に受診できるようになった。 訪問歯科診療を利用していたが、義歯が合わず、以前から歯科を受診したいという思いが現実となった。	病院に入院し、本人の意志・家族の同意があり、退院。寝たきり状態となり要介護3となった。在宅で訪問入浴、訪問リハビリ、訪問診療、訪問歯科の在宅サービスを利用しながら一年後の要介護認定で、要介護2と改善する。自宅での入浴は見守りのみで自立し、その後も通所リハビリを週1回、訪問リハビリを週1回利用しながら、以前から受診していた歯科に通うことができるようになった。
要介護3	要介護2	—	女	【自営業で役割を増やす】 歩行器を使用して、自営業の集金で近所に行けるようになった。	屋外歩行が難しくなり、歩行器をレンタルすることで、外出ができるようになった。歩行器を利用して、歩行の機会を得たことで体力もつき、要介護度が改善した。
要介護1	要介護1	—	女	【仕事復帰】 短期間パートの仕事に復職することができた。	骨折により体力が低下した。ヘルパーと一緒に家事をするようになり、体力がついてきて、短時間だが復職できた。
要介護1	要支援1	—	男	【地域活動に参加】 ウォーキングへの参加をきっかけに、自己管理能力が回復。	手術後、体力・食欲が低下し、他者・地域との交流が無い生活をしていたが、担当ケアマネジャーの声掛けで、包括支援センターが行っているウォーキングへの参加を機に、毎日の体調管理や食事の管理をするようになり、体力がついてきた。
要介護5	要介護4	—	女	【買い物にいけるように】 車いすをおしてもらい、週1回、近所のスーパーへ買い物に行けるようになった。	寝たきり状態であったが、訪問看護、訪問介護、往診、訪問マッサージのサービスを導入し、2年以上の支援を継続した結果、ポータブルトイレが使用できるまで体力がついた。自分で買いたいものを決めることができる、その買い物を楽しみにしている。
要介護5	要介護2	—	女	【家族とお墓参りにいけるように】 他県にある夫のお墓参りにいけるようになった。	デイサービス利用開始から、デイサービスの仲間に出会うのが楽しみになった。このことがきっかけで、要介護5から要介護3へ。要介護3から要介護2へとなり、寝たきりであったのが、独歩できるようになった。
要介護1	—	86	女	【趣味の復活・学習会への参加】 麻雀の会への復帰。認知症学習会への参加。	転倒による圧迫骨折で要介護となり、コルセットを装着して治療をしていた。その間にデイサービス利用を開始し、整形外科のリハビリに通い、生活動作の回復に努めた。法人の運営する「居場所(はなもも)」に以前参加していたこともあり、半年を経て自主的な活動を少しずつできるようになってきた。
要介護1	—	47	女	【仕事復帰】 大手企業を2年退職後、仕事内容を変更し、週3回の時短勤務と週2回の自宅勤務という変則勤務で元の職場に復帰。	① パーキンソン病の病気休暇中に介護認定を取得し、ケアマネジャーが介入開始。 DBS（脳深部刺激療法）の手術を経て、病気休暇中にリハビリを行い、1年後に復職という目標を立てる。 ② 通所リハで、生活行為向上リハビリテーション加算を用い、実際の通勤経路を同行。通勤手段の評価・訓練などを随時行いつつ、勤務先産業医や保健師に毎月リハビリの進捗をケアマネから報告。 ③ 復職前には3回ほど担当PT（理学療法士）・福祉用具業者・ケアマネジャーが会社まで訪問し、産業医や上司との面談を行い、復職後に生じる可能性のある問題点やその解決方法について協議。 ★当初は復職に対し、否定的な見解を示していた会社側も、これらの一連の対応を機に、御本人の就労継続に協力的な姿勢を示してくれるようになり、現在は御本人の体調に合わせた勤務形態を整えてくれた。

要介護度		年齢	性別	社会参加となった内容	きっかけと参加への道のり
改善前	改善後				
—	要支援2	68	男性	<p>【麻雀ボランティア】</p> <p>御自身が、要介護認定を受け利用していたデイサービスセンターを卒業し、そのデイサービスセンターに麻雀ボランティアとして、一人で来所できるようになった。</p>	<p>① デイサービスセンターを「外出の機会、他者交流、それによる活動性の確保、健康状態の確認等」を目的に週1回利用していた。</p> <p>② 利用当初からA D L（日常生活動作）は、概ね自立しており、デイサービスセンターで提供しうるサービスの必要性は、「外出し他者との関わりを確保できるのであれば、今後は必要がないのではないか」と考えた。</p> <p>③ 御本人、ケアマネジャー、デイサービスセンターで話し合い、デイサービスセンターの終了を決める。</p> <p>④ 「身体的能力の維持・強化を図る」デイサービスへの変更を行う。並行して、利用終了したデイサービスセンターを利用していた際に麻雀が好きな様子だったので、御本人に「麻雀の手伝いに来て欲しい」と依頼し、快く承諾いただく。</p> <p>⑤ 週1回、約2時間程度、自ら歩いてデイサービスセンターに来所し、麻雀の手伝いと利用者さんとの会話を楽しんでいる。</p> <p>〈経過〉</p> <p>ボランティアでデイサービスセンターに通うことで、活動性を確保しつつ、デイサービスセンター・ケアマネジャー共に、その方の様子を確認することもできている。生活のリズムを整える・役割の創出・楽しみの創出という点でも、自然な形で支援と社会参加が実現できている。</p>

